

## 第 2 回検討会以降の委員意見について

## 【第 2 回検討会における意見】

No.	委員意見等	事務局対応案
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>メガソーラーや風力発電というのは、市民からすると身近なものではなく遠く感じやすく直接関わりにくいイメージが強いため、「来館した人がそのような政策をやっているのか」で終わってしまう。そうではなく、個人でもできることというのは環境面やエネルギー面でもたくさんあるかと思います。 例えば、建築では断熱材、森林を生かすということでは薪ストーブもあります。個人レベルでできることというのは身近にもたくさんあるかと思うので、そのような視点を入れていただくと非常に面白いのかなと感じる。 (井上 委員)</li> </ul>	御意見を踏まえ資料 1-2 “サステナブルなくらし” に反映。
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>只見町の教育委員会で進められている ESD 教育、つまり地域教育です。これは全国的にも先進事例で、東北では只見町に教育の事例紹介をお願いすることが非常に多く、結構引っ張りだこな部分があります。そのようなところも参考にされると、非常に面白いと思う。 (井上 委員)</li> </ul>	御意見を踏まえ資料 1-2 “サステナブルなくらし” に反映
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>マッピングふくしまのコンテンツについて、我々の現在の豊かさを源泉としているこの文明の在り方そのものに対する大きな反省をグローバルな視点から見ていく、そして、福島というローカルな地でどのような未来をつくっていくべきなのかを考える、科学技術を使った豊かさの追求というこの人類のこれまでの営みを大きく反省し、地球環境の一部であるところの我々自身の存在の根本を見つめ直す、そういったストーリー展開が必要ではないか。 (池辺 委員)</li> </ul>	御意見を踏まえ資料 1-2 “マッピングふくしま” のコンテンツ内容に反映

4	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境創造エリアにおける“ぐるぐるマーケット”についてリデュース・リユース・リサイクルの3Rを主軸にしたこと自体はもちろん大変重要で大事な部分ですが、もう少し地域資源に紐付けた展示展開があると、より良い体験を提供できると思う。 全体の体験をどのように設定するか、違和感がないように設計していただければと思う。  (池辺 委員)</li> </ul>	<p>御意見を踏まえ資料1-2“環境創造エリア”の考え方を整理し、“ぐるぐるマーケット”を“サステナブルなくらし”に変更</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>“ぐるぐるマーケット”について、実生活にも繋がるような体験ができることや、簡単に答えが出てくるよりも来館者がもう少し関わられるような体験的な要素が入るとよいのでは。  (田崎 委員)</li> </ul>	<p>“ぐるぐるマーケット”を“サステナブルなくらし”に変更し、今後体験的な要素を組み込めるように検討したい。</p>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>物づくりと地域資源とを結び付けられるとよいと思いました。物を作り、物を使うということをやっているわけですが、それに対する反省をしつつ地域文化と地域資源を再認識することによって、これからの物づくりや物の使い方に対して我々がどのようにすればよいのか、それを改めて考える機会にすることできる。そのようなコンセプトがよいと思う。  (池辺 委員)</li> </ul>	<p>御意見を踏まえ資料1-2“サステナブルなくらし”において、具体的な体験内容を検討します。</p>
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設の特徴がしっかりとあると、各学校に対して、来館促進を打ち出していけると思う。  (阿部 校長)</li> </ul>	<p>コンテンツ等制作を検討する際に十分に意識し、検討したいと思います。 引き続き御助言等をお願いしたい。</p>
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>今までに来館した子ども達の感想や見学した際の記録があるかと思えます。そういったものの中で、例えば5年前に来た小学5年生が感じていたことなど、ピックアップして見てもらう。その当時の小学生はこんな風を感じたことをその展示で見てもらう。意外と小学生、中学生が同じ小学生、中学生の感想や記録を見て、同世代だから響くようなものがあると思う。  (阿部 校長)</li> </ul>	<p>御意見を踏まえ資料1-2“ふくしま情報マルシェ”に反映</p>

9	<ul style="list-style-type: none"> <li>“救え！ふくしまのいきものたち”について、コミュタン福島に来ないとできない、コミュタン福島に来てやれるのはそのゲーム的な要素の部分だけではなく、もっと深掘りできる何かが必要なのではないかと感じました。 また、大玉村と猪苗代町に環境創造センター附属施設があるので、何か連動できる仕組みがあると面白い。 (阿部 校長)</li> </ul>	<p>御意見を踏まえ“救え！ふくしまのいきものたち”に反映 附属施設との連動は引き続き検討したい。</p>
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学生、高校生には「こういうところを見学してほしい」といったモデルコースをお示しすると、どういうことを教えようとしているのかポイントで見ただけ、関係者との議論ができるのではと思う。具体的な提示案と合わせて小中高別のモデルコース的なものを作成する。 (事務局)</li> </ul>	<p>資料 1-2 に想定見学コースを提示。詳細は今後検討したい。</p>
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>具体的にエネルギースペクトルを測るようなこと、例えば子ども達が身近に放射線を測る環境がない。基本的な計測のリテラシーというのは県内のどこかで押さえないといけないと思う。 (山口 座長)</li> </ul>	<p>御意見を踏まえ検討した結果、展示物としての対応は困難と考え、来館した小学生等の大部分が受講する体験研修の新メニューとして反映。</p>
12	<ul style="list-style-type: none"> <li>コミュタン福島において、子ども達が実際に自分の手で測定ができるというのはすごく重要なことと思う。 (高村 委員)</li> </ul>	<p>御意見を踏まえ検討した結果、展示物としての対応は困難と考え、来館した小学生等の大部分が受講する体験研修の新メニューとして反映。</p>
13	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体的に放射線教育について基礎教育の方に限定されているような印象を受ける。なぜコミュタン福島ができたのかというと、原子力災害というものを含む複合災害が起こって、そこから環境を取り戻そう、新しく創ろうという中で生まれてきたと思うので、そういった視点があったほうがよいと思う。 (高村 委員)</li> </ul>	<p>コンテンツ等制作を検討する際に十分に意識し、検討したいと思います。 引き続き御助言等をお願いしたい。</p>
14	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ふくしま情報マルシェ」は非常に面白いと思う。例えば、ロボテスフィールドで現在廃炉のため、災害現場使用のため、ロボットのテストをやっているの、そういったロボットの現物を展示できるとよいと思う。それらは、実は原子力災害と非常に関連があるという視点があることを伝えられると良い。 (高村 委員)</li> </ul>	<p>御意見を踏まえ資料 1-2 “ふくしま情報マルシェ” に反映</p>

15	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校5、6年生の家庭科で3Rについて学ぶ。自分が物々交換や買い物遊びをとおして、3Rについてイメージするだけで、次の家庭科における環境学習に活かすことができる。これが次に中学校に上がると、5Rとなり、またさらに発展的になる。そういう意味でもこの「ぐるぐるマーケット」の遊び、体験というのは貴重なものになるのではないかと感じた。</li> </ul> <p style="text-align: right;">(石幡 委員)</p>	<p>“ぐるぐるマーケット”を“サステナブルな暮らし”に変更 3R・5Rについては“未来創造インフォストリーム”及び“探る！ふくしまの環境の今”に反映。</p>
16	<ul style="list-style-type: none"> <li>「放射性物質は、リスクもあるが様々な分野で利用されている」というこの応用の部分についても、現在子ども達にしっかりと教えています。正しく知って正しく怖がるということも含めて、この内容がさらに充実すると、見学した後、各学校が学びをさらに繋げていけるなと感じた。</li> </ul> <p style="text-align: right;">(石幡 委員)</p>	<p>御意見を踏まえ“環境回復エリア”及び体験研修の内容を検討したい。</p> <p>引き続き御助言等をお願いしたい。</p>
17	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校から来た子ども達に対して教員が授業の一環としてコミュニティ福島のコンテンツをどう取り込めるかを、常に把握していないといけないと思う。プランニング中で、何年生がどんな科目で関わるかを想定すべき。</li> </ul> <p style="text-align: right;">(山口 座長)</p>	<p>御意見を踏まえ体験内容等の詳細を検討したい。</p> <p>引き続き御助言等をお願いしたい。</p>
18	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境省において地域循環共生圏という形で進めてきたものを気候教育へと舵を切ろうとしている。影響が出てくると思うので、環境創造エリアにそういった点を学べるような展示等があると非常によいと思う。</li> <li>また、ある意味SDGsというのは例えば気候変動だけ、貧困だけということではなく複合的に問題を解決していこうという考え方なので、その辺の考え方も是非を入れ込んで考えていただければと思う。</li> </ul> <p style="text-align: right;">(井上 委員)</p>	<p>御意見を踏まえ、環境創造エリアの内容を検討したい。</p> <p>引き続き御助言等をお願いしたい。</p>
19	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究者とのコラボレーションの体制づくりが重要になってくる。研究者も日々忙しくこういった展示づくりへのコラボレーションはなかなか難しいと思う。この辺をどのように対策していくのが非常に肝になるかなと思う。</li> </ul> <p style="text-align: right;">(池辺 委員)</p>	<p>御意見を踏まえ対応について検討したい。</p> <p>引き続き御助言等をお願いしたい。</p>

20	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境放射能に関する新しい知見や現在の福島県の状況など最先端の情報発信をコミュタン福島に留めずに全国に発信していく、そういったチャンネルも模索すると非常によいと思う。 全国科学館連携協議会等のネットワークを通じ、放射線と放射線学習に関する情報発信拠点としてのコミュタン福島の発展の仕方というのも、検討いただけるとよいのではないか。 (池辺 委員)</li> </ul>	<p>御意見を踏まえ対応を検討したい。 引き続き御助言等をお願いしたい。</p>
21	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども達に展示コンテンツづくりそのものに関わらせてもらうというものがあってもよいと思う。プロがつくったものだけを見るだけではなく、中高生はそのコンテンツづくりに自分達も関わって、自分達が調べたことを形にして来館者に見てもらおうよううまく学生を巻き込むような仕掛けを検討するとよいと思う。 (阿部 委員)</li> </ul>	<p>御意見を踏まえ対応を検討したい。 引き続き御助言等をお願いしたい。</p>

【第2回検討会以降の意見】

No.	委員意見等	事務局対応案
22	<p>＜ふくしま情報マルシェ＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コンテンツ例に追加してほしいことは、米の全量全袋検査に取り組み、その結果を発信してきたことです。検出機器の展示などはあるようですので、プラスして約10年の経年変化を見ていただくことは、現在の安心につながると思います。</li> <li>イメージ図です、足が四隅に広がり、来館者がつまづかないか心配ですので、出来れば改善してほしいです。</li> </ul> <p>(田崎 委員)</p>	<p>御意見を踏まえ資料1-2“ふくしま情報マルシェ”に反映</p>
23	<p>＜バーチャルラボツアー＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>バックヤードツアーについて教えてください。</li> </ul> <p>学校(学年での参加)からの見学申込もあると思います、その場合の対応は可能でしょうか？また、回数や人数制限などの条件は設けますでしょうか？</p> <p>(田崎 委員)</p>	<p>学校視察にも対応できるよう検討しております。</p> <p>なお、回数や人数制限等の条件設定はアテンドの対応も含め今後検討して言いたいと思います。</p>
24	<p>＜ぐるぐるマーケット＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ぐるぐるステーションの改善について現実の生活に役立つ展示になるようお願いします。</li> </ul> <p>例えば、壁を利用し、中心にはペットボトルの写真(沢山の種類を用意する)を示し、その周りに選択肢(4個くらい用意)(燃えるごみ、キャップやラベルをとりリサイクル、燃えないごみ、再利用等)を掲示し、その中から正解を選ぶ。写真を変えれば、正解の選択肢も違ってきますし、写真の追加や削除はしやすいと思います。</p> <p>応用編として、原材料はどこから輸入しているか、日本の自給率はどのくらいか、リサイクル率などの説明もあると良いかもしれません。</p> <p>難度は初級、中級、上級を用意し、最初に選択していただく。そうすれば年齢、学年にあった学習が出来ると思います。</p> <p>(田崎 委員)</p>	<p>“ぐるぐるマーケット”を“サステナブルなくらし”に変更</p> <p>なお、応用編として御意見ありました内容は“未来創造インフォストリーム”や“探る！ふくしまの環境の今”に組み込めるか検討したいと思います。</p>

【サステナブルなくらし（“ぐるぐるマーケット”の代替展示案）への意見】

No.	委員意見等	事務局対応案
25	<ul style="list-style-type: none"> <li>体験1、体験2は、一般論としてはよいと思いますが、放射能汚染の状況下にある福島の現状から考える必要があると思います。特に全く除染されていない森林地帯のバイオマス資源を使うという行為には特に慎重さが求められ、薪ストーブに使うというのは現時点では考えられないことです。</li> <li>環境創造エリア全体にかかわることですが、「放射能汚染とそこからの回復」を前提として、放射能リスクを常に意識して、そのリスクを避けながら自然の恵みを得る知恵を獲得することが必要なのだ」ということが環境創造の基本的な考えに含まれている必要があると思います。汚染度は場所ごとに大きく違うので、帰還困難区域の自然環境まで積極的に利用することを考えなくてもよいとは思いますが、放射性物質というリスク要因は常に意識しながら、そのリスクを避ける知恵とともに、農業・漁業を行い、エネルギー生産をして、その他自然と共生する“まδει”な暮らしを求めていくということが通底するコンセプトになるのではないかと思います。 (池辺 委員)</li> </ul>	<p>御意見を踏まえ体験内容等を検討したいと思います。 また、今後環境創造センターにおける研究成果等を適宜反映していきたいと考えております。 引き続き御助言等をお願いしたい。</p>
26	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域資源（自然の恵み）を有効活用することが、循環型・自然共生型社会へ向けた取組であることを、映像や体験を通して実感させようとしていることは良いと思います。 (石幡 委員)</li> </ul>	<p>引き続き御助言等をお願いしたい。</p>
27	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ふくしまならではの」と考えた際、「丁寧」「無駄なく」の他に何かないか。 (石幡 委員)</li> </ul>	<p>御意見を踏まえ、第2回検討会の井上委員から御意見を頂いた只見町の取組等を反映。</p>
28	<ul style="list-style-type: none"> <li>「江戸時代もリサイクルが素晴らしかった」という話がありました。未来創造インフォストリーム（仮称）で、過去の取組情報の一つとして紹介することは可能か、検討していただきたい。 (石幡 委員)</li> </ul>	<p>御意見を踏まえ“未来創造インフォストリーム”に反映。 コンテンツ作成にあたり引き続きの情報提供・御助言等をお願いしたい。</p>

29	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 現在テレビでも「SDGs 特集」が良く組まれており、主な内容は、ものを無駄にしないことや、昔ながらの知恵を取り入れるなど、そもそも存在した知恵を生かすことが中心に見直されています。そのため、日本の「サステナブルな暮らし」という考え方や捉え方は合っていると思います。</li></ul> <p>(井上 委員)</p>	引き続き御助言等をお願いしたい。
----	---	------------------